

令和5年 湖西市議会3月定例会

市長施政方針

令和5年2月17日

本日から、湖西市議会の令和5年3月定例会が開催されるにあたり、施政の方針を申し上げるところ、まずは、2月14日に、湖西市名誉市民である、豊田章一郎様のご逝去されました。謹んで、お悔やみを申し上げます。

常に、「現地現物」を大切にし、また、豊田佐吉翁記念奨学金奨学生への激励など、湖西市に心をお寄せ頂いた、生前のご功績を偲び、2月15日には、始業前の黙とうや、市役所をはじめ公共施設における半旗の掲揚を行っています。また、15日から22日までの予定で、1階市民ホールに献花台や記帳台を設置させて頂いており、多くの市議の皆様にも、早速にご記帳など頂き、ありがとうございます。改めて、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、湖西市制51年目を迎え、これから10年後、50年後の未来を見据え、『職住近接』の推進により、人口減少や少子高齢化を乗り越え、持続可能で、活気あるまちづくりのため、初心を忘れず、引き続き全力投球していきたいと思っております。

それでは、令和4年度の取組状況と、令和5年度における主な取組を申し上げます。

（新型コロナ感染症対策関連）

まずは今年度も、新型コロナウイルス感染症対策に注力した1年となりました。医療関係者はじめ多くの方々のご尽力のおかげで、ワクチン接種については、接種を希望される方が、速やかに接種できる機会を確保いたしました。8月の第7波の際からは、医療機関のひっ迫状況の解消を目的に自己検査キットの無料配布を開始し、2月15日までに、654件の配布を行っています。また、季節性インフルエンザの同時流行に備え、12月から2月までの日曜祝日・年末年始には医師会の皆様の大変なご尽力により、発熱専門の外来診療体制を整備いただき、2月12日までの受診件数は1,289件となっております。5月8日には感染症法上の位置づけが2類相当から5類となる国の方針が示されておりますが、ウイルスが消滅したわけではありませんので、市民の皆様には、引き続き感染予防・拡大防止策の徹底をお願いいたします。

また、経済対策として現在、プレミアム付きデジタル商品券「コーちゃんPay」を実施しています。2月28日までの期間となりますので、多くの方にご利用いただき、地域経済の活性化に繋がりたいと思っております。

（市制50周年関連）

令和4年度の目玉事業の一つは、市制施行50周年事業でした。コロナ禍の中でも、市民の皆様と一緒に祝いし、思い出に残る各種の事業が出来たと思っています。

元日の、新年カウントダウン手筒花火に始まり、5月14日には、記念式典を挙行了しました。新居高校書道部・湖西高校三味線部の皆さんの素晴らしいパフォーマンスや、式典の締め、5月31日をこさいの日とする「こさいの日」宣言を一緒に行い、初めての「こさいの日」には、『君の可能性は無限大!』をテーマに、市内の企業などにもご協力いただき、中学3年生を対象とした「特別授業」を行いました。夏にはおいでん祭も3年ぶりに実施することができ、多くの市民の皆さんにご参加いただき、「うなぽん」のお披露目や航空自衛隊浜松基地によるT-4、T-400の展示飛行も実施いたしました。同日開催の「浜名湖ミュージックフェス」は、ふるさと大使の當間ローズさんや大黒摩季さんなどが出演し、市内・外の多くのファンや子どもたちを通じ、湖西市をPRして頂きました。10月30日の佐吉翁の命日には、顕彰祭の後、鷺津小学校4年生による佐吉翁の寸劇の披露や、豊田章男社長による「クルマの未来」をテーマに、カーボンニュートラルや水素など、体験型の特別授業も実施いたしました。

加えて、高校生議会や青少年の科学体験などを実施したほか、大晦日の夜にも、フィナーレとして手筒花火を披露し、多くの市民の皆さんとともに市制施行50周年をお祝いし、楽しむことが出来ました。

これらの記念事業を、一過性のものにせず、モノづくり人材育成やシティプロモーションをはじめ、継続的に、湖西市の発展に繋げていけたらと考えています。

(4つの柱)

主要な事業は、湖西市総合計画にも掲げる、4つの柱を中心に進めてまいりました。

1つ目の「安全・安心、医療福祉」の主なものとしては、

医療の面では、浜松市と持続可能な地域医療提供体制の確保に関する連携協定を締結し、浜松医療センターとの、高度急性期医療と回復期患者の相互受け入れといった病院間における機能分化、医師の派遣等の人事交流、看護師の確保・育成などの相互連携を推進することにより、安全・安心で質の高い医療提供体制の確保に努めてまいりました。引き続き、助産師外来や看護学校の湖西市卒の創設といった、地域医療の充実に繋がる連携を、具体的に推進してまいります。さらに、湖西市内での医療提供体制についても、3月中には協定を締結し、浜名病院や市内の医師会等ともさらに連携を深め、夜間・休日の救急受入れ体制の役割分担の明確化、病院間の医療従事者受入れ体制の構築などを進めます。

合わせて、湖西病院においても、経営強化プランの策定により、上記に加え、中長期で総合診療医の招へい・育成や在宅医療・かかりつけ医機能の充実強化を図り、地域医療

の中核として、地域に密着した持続可能な医療提供体制の確保にも努めてまいります。

もちろん、新型コロナウイルス対策においても、5類への変更後も、引き続き国の方針に沿って感染予防・拡大防止、地域経済の活性化に努めてまいります。

防災関連においては、命を守る、津波避難タワーや命山の整備に続く次のステップとして、お家や工場など、財産面における津波災害の防止・軽減を目的とし、自治会・自主防災会などへのヒアリングや、有識者等による「津波防災地域づくり推進協議会」において議論を行っているところです。市沿岸の津波防災対策として、防潮堤等のソフト・ハード整備につき、地震・津波に強い地域となるよう市民の皆さんと共に考え、この一年で、中長期的な、未来に向けての計画を策定したいと考えています。

2つ目の「子育て・教育の充実」におきましては、4月から「育ちの応援ステーション」をスタートしました。妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援と、ワンストップ相談窓口の充実を図るとともに、発達に課題のある児童への支援についても検討を進めてまいりました。また、保育の受け皿整備の次のステップとして、放課後児童クラブについて、岡崎小学校内の増設工事を行いました。令和5年度は、新居小学校内に増設工事を行い、鷺津小学校区では新たなクラブの開設もいただく予定であることから、これにより学童の待機児童を解消いたします。

学校再編につきましては、有識者による「学校教育施設適正化検討委員会」から望ましい教育環境や望ましい適正配置について報告書をいただき、子どもたちにとって、最適な教育環境を第一に考え、今後の学校の在り方について、「これからの小・中学校についての意見交換会」を、市内の学校区ごとに行いました。それらを受け、2月の総合教育会議では、2年前にいただいた再編方向性を基にご議論をいただき、教育委員の全員から、子育て世代の方々を中心に地域のご意見を持ち寄っていただき、かなり強く、早期の学校再編を行うことにより、子どもたちの教育環境の観点から、クラス替えの出来る環境の必要性や、学校行事・PTA役員・部活動・地域のコミュニティ機能、学校再編に向け早期に取り組むべきとの、切実なご意見を多くいただきました。教育委員の皆さま方も、継続して一緒に取り組みたいとお話を頂いたことから、早期に保護者の方々とのアンケート等による、各論的・具体的な学校再編の配置を決定し、子どもたちのため、地域のためにも、湖西市の望ましい教育環境を実現してまいります。

また、子育て支援における組織としては、健康福祉部の子ども家庭課を「こども未来部」として、人員や機能を拡充し、さらなる少子化対策・子育て支援を拡充していきます。具体的には、ホームヘルパー助成や預かり保育の拡大など、産前産後ケア・相談事業

を充実させることで、伴走型の切れ目のない支援を行い、さらには発達に課題がある児童とその家族への相談支援機能を付加した、新たな施設の設置に向けて進めてまいります。

また新たに、スポーツによる地域活性化として、「湖西市スポーツビルドアッププロジェクト」を立ち上げ、部活動の地域移行へ対応するための検討組織を立ち上げるとともに、ジュニアスポーツクラブの種目拡大と助成拡充により、参加促進を図ってまいります。また、デンソーポラリスに加え、静岡ブルーレヴズや三遠ネオフェニックスなど、プロスポーツ等との連携を一層強化し、スポーツを「する」「観る」「支える」の多角的な観点から、ゴールデンエイジへの栄養教室・健康講座や体験教室の実施、ホームマッチへの招待、技術指導を通じた子どもたちと選手たちとの交流により、スポーツを全世代の方々に、日常的に身近に感じていただく機会を増やし、地域活性化につなげてまいります。

3つ目の「産業の振興」は、肝入りとして創設した「モノづくり推進室」を職業訓練センターに移転し、敷居を低くすることで企業との連携を強化し、市内企業の技術やノウハウ・スキルなどの情報発信を強化することで、湖西市のモノづくり技術の素晴らしさを発信し、地元企業への就職に繋げる取組を行っています。湖西KIDS EXPOはじめ、地道なことも多くある、モノづくり推進室の若手職員の、前向きかつ積極的な取組は、市内外の企業の方々から、数多くのお褒めのお言葉をいただき、大変頼もしく、誇らしく思っています。

また、市内の高校と豊橋技科大などとの連携を強化する取り組みも開始し、学校や企業など産学官が連携した「モノづくり産業ネットワーク」を構築することにより、人材育成や企業への体系的な支援を行ってまいります。

土地利活用の一体的推進においては、浜名湖西岸土地区画整理事業地区につき、昨年4月27日の起工式で「KOSAI Battery Park」と命名をいただきました。EVはじめ、次世代の車載用電池の一大産業拠点となる、バッテリーパークの整備と、そこへ接続する「バッテリーロード」開通を今年の夏頃に予定しています。湖西市のモノづくりがさらに裾野を広く、かつグローバルに展開されるよう、取り組んでいきます。

なお、企業等から多くいただいている、工業用地に関する相談窓口を、都市整備部と産業部の縦割りから、都市計画課に一元化させていただきました。加えて、浜松湖西豊橋道路のIC周辺の活用、新たな工業用地など宅地・商業施設・工業施設といった多くのニーズに対応するための開発可能性調査、宅地開発促進のための土地提供者（地主）や開発事業者（デベロッパー）への奨励金、インセンティブ制度を、引き続き行うとともに、加えて、優良田園住宅制度の活用など、市街化調整区域における宅地の促進に向け、制度設計

を進めてまいります。

畜産臭気対策については、全養豚場で実施してきた臭気測定調査結果を基に、各養豚場での専門家によるカウンセリングを実施し、事業者と臭気対策方法の共有を図り、臭気測定調査を継続し、臭気対策による効果を検証してまいります。また、引き続き、生活環境の保全と畜産事業振興の両立を目的として、浜名湖電装・キャノンマーケティングジャパンと、次亜塩素酸の自動噴霧装置など「畜産臭気対策事業における連携及び協力に関する協定書」を締結させていただきました。県の技術研究所とも連携し、養豚場からの臭気発生の抑制と、生産性向上の両立、更には今年の実証実験の結果により、他の畜舎への横展開を目指し、職住近接の推進に繋げる取組を行ってまいります。

また、市制 50 周年記念として拡充した「佐吉の郷 スタートアップ支援事業」の推進により、事業者の空き家・空き店舗等を活用した創業支援のほか、既存の事業にとらわれず、新たな事業、製品開発等に取り組みやすい環境を整備するため、クラウドファンディングを活用した資金調達の支援など、遠州地域等との広域連携とも合わせ、引き続き創業支援や、賑わいの創出に努めてまいります。

4 つ目の「観光・シティプロモーション」については、

新居弁天地域の一体的な再開発について、公募選考により、事業者を「新居弁天公園観光促進共同事業体」に決定しました。夏の海水浴や冬のプリ丸・牡蠣小屋に加え、地元特産品マルシェなど、年間を通じた集客・にぎわいの創出に向け、期待の声も市内・外からいただいております。観光拠点から、点と点を舟運や自転車、天浜線などの公共交通などにより、線や面で繋がられるよう、引き続き地域の方々や、来年の浜名湖花博 20 周年事業などに向け、県や浜松市、DMO などとも連携し進めてまいります。

また、湖西市芸能の祭典・美術の祭典。ジュニア美術展なども 3 年ぶりに開催され、久々に、多くの方の笑顔を見ることができました。拠点として新居地域センターのバリアフリー化等の改修工事にあたっては、文化協会など利用者の皆様のご意見を極力反映させていただき、舞台やステップ・スロープ、トイレなど、各使い勝手を良くするための設計を行わせていただいております。

さらに、「職住近接」を推進するためのソフト事業としても、引き続き移住・定住促進支援を行ってまいりました。新しい施策としては、「新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金」の申請者のうちで、3 年間湖西市に継続して住んでいる方へ、「ずっと住もっか「こさい」ペアチケット」をお渡しし、さらに継続して住んでいただくようなきっかけづくりをしてまいりました。

情報発信においては、広報戦略アドバイザーを積極的に活用し、そのアドバイスにより移住・定住プロモーション戦略を策定し、市内企業で働く方やその家族、静岡県西部に加え東三河にお住まいの若い世代など、ターゲットを明確にして効果的なプロモーションとなるよう、リニューアルした市公式LINEやインスタグラムによる市の魅力発信、うなぼんを活用した市の認知度向上に取り組んでまいります。

（中長期・横断的な政策）

これら、4本の柱に加え、人口減少や少子高齢化の中でも持続可能であるためには、もちろん国を挙げての政策が必要ですが、基礎自治体でも、出来る限りのことを行わなければなりません。中長期かつ横断的な政策として、将来を見据え、カーボンニュートラルの推進に向けては、省エネルギー化に向けた診断・分析を行う中小企業への支援を実施しています。今後は診断に基づき、具体的な設備投資等の改善について、各企業や金融機関等とも連携して取り組みます。再生可能エネルギーの普及促進や、遠州信用金庫さんからの次世代自動車の寄贈をはじめとする、行政におけるゼロカーボン化も着実に推進し、CO2排出量削減を、進めてまいります。そして、オール湖西での省エネルギー推進や再生可能エネルギーの普及等による、「湖西市版ゼロカーボンシティ」の実現を目指すため、3月に「湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会」を立ち上げ、市民や企業、学識経験者の方々からご知見を頂き、令和5年度内に「地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」を策定し、CO2削減等に向けた具体的なロードマップを策定いたします。

DXの推進については、「湖西市DX推進計画」に沿って引き続き全庁的に推進し、利便性の高い市民サービスと効率的な行政運営の実現を目指します。具体的には、水道事業において引き続き、中部電力や豊橋技科大などと連携し、時間帯別料金制度（いわゆるオフピーク料金）制度の導入に向けた実証実験や、遠隔通話システムによるスマート窓口を実施するほか、令和9年度までに、全国初となる水道スマートメーターを市内の全戸に拡大し、検針時間の短縮や漏水判定の向上、検針票の電子化、更には産学官が連携し、データ利活用推進によるフレイル予防など、将来的な社会保障費の削減にも活用できたらと考えています。また、実施中のポイント付与キャンペーンなどを通じ、電子申請の普及促進を図ることで、「行かない・書かない市役所」による市民サービス向上・業務の効率化を進めてまいります。

公共施設の再編につきましては、改修工事の最終年度となる環境センターに加え、先ほどの新居地域センターのバリアフリー化等により、市民の皆さまが日頃の成果を発表する場として使い勝手を良くし、消防防災センター、給食センター、学校施設の長寿命化等

を引き続き進めてまいります。新所幼稚園においては、先ほどのとおり、子育て支援センター機能に加え、発達支援相談機能を加えた「地域子育て支援拠点事業を実施する施設」として整備します。

また、老朽化の著しい市役所庁舎、湖西病院の整備も計画的に実施する必要があり、市役所については、令和5年度中に基本構想を策定いたします。さらに、中期的には子育て支援センターのびりん・老人福祉センター・新居地域センター等の後継となる施設についても、複合化を視野に、今後計画的に進めてまいります。

(結び)

1990年代に、週刊少年ジャンプやテレビアニメで人気を博し、今回、年末年始に映画化された「SLAM DUNK」の中で、安西先生の名ゼリフに、「下手くその 上級者への 道のりは 己が下手さを 知りて一歩目」というものがあります。何事にも共通することですが、現状と課題、事実関係の実態を把握し、分析し、改善していく。これが、行政のプロセスにおいても、重要だと考えています。

最近の行政運営においては、複雑かつ多様化する行政需要の中、一つの市だけでは財源や制度など、解決が難しいことも多いことから、市民サービスを主役とし、医療や水道事業、公共交通の企業シャトル BaaS の本格運行など、市や県といった、行政の境目を越えた広域連携の推進や、政策参与や企業等の方々からも幅広くご知見をいただき、官民共創による地域課題の解決を図りつつ、『職住近接』による持続可能なまちづくりを推進してまいります。

市議会をはじめ、皆様方のご理解ご支援を、よろしくお願い申し上げます。

以上、私の施政方針とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上